

唐門

唐門は、1628年に江戸の増上寺に建てられたものです。仏殿と同様、唐門は1647年の建長寺大改築の際に寺再建の一部として、強力な徳川幕府（1603年～1867年）によって建長寺に寄進されたものです。この門は重要文化財に指定されており、2011年に修復されました。

唐門は、住職の住居であった方丈への正門となっています。この門を使うのは、天皇と勅使に厳密に限定されています。それ以外のすべての訪問者は、僧侶自身さえも、北条への横の入り口を使います。

唐門の壮大なスケールと黒漆と精巧な金箔の組み合わせは、徳川家の典型的な建築物です。起伏のある屋根は唐破風と呼ばれ、日本で重要建築物に用いられる建築様式です。